



2025 年 8 月 吉日

塾通信

暑中お見舞い申し上げます。

今年の夏も非常に暑い日が続いていますね。予報ではこの暑さも 8 月中旬以降になれば少しは凌ぎやすくなるとのことですが、秋のような湿度の低い過ごしやすい季節の到来はまだまだ望めそうにないようです。



さて、今年度の中学 3 年生も今春卒業した生徒同様、全員が志望校に合格できるように教師陣も生徒も頑張っています。近年、少子化の影響から定員割れの高校や競争率の低い高校があることから、学習意欲が低下する生徒が増えていると言われますが、中堅以上の高校に関しては何も変わっていません。実際に簡単に合格できることはないのです。ところで、義務教育でない高校への進学率は 2024 年時点で 98.8% に達しています。ただし、この数字は志望校に合格した生徒の進学率ではありません。公立高校を受験したが不合格になったために私立高校に進学した生徒も非常に多く含まれているのです。これは塾の公表する合格率も同じです。つまり、公立高校への進学を希望しながら不合格となったために私立高校に進学した生徒が多数いたとしても合格者として扱われます。近年、受験者全員の進学先と受験結果（不合格者数）等を公表せずに、難関校の合格者数だけを大々的に公表して、誰もが難関校に合格できるかのような錯覚をさせる塾が多くなっています。また、中高一貫校の中学部への進学を希望する生徒は、高額な費用を必要とする塾の受験科に入塾しながら、受験に失敗して不合格となり、私立中学校に通うことになる生徒は非常に多くいますが、これらのケースでも塾は合格者数に加えて公表するのです。そもそも中高一貫校の中学部は、公立高校と同じく定員以上の生徒は受け入れませんので、競争率が高ければ高額な費用を支払って塾の「受験コース」に通ったとしても合格の保証はありません。SS 学院は、第一志望校に合格した生徒の進学率こそ真の進学率であると考えています。例えば、今春の当塾生の入試結果では、全員が第一志望の高校に合格してくれました。もちろん、このような結果は塾だけの力で達成できることではありません。ご家族の協力と生徒の努力によって勝ち得た結果なのです。

ところで、近年、スマホを持つ子供が増えたことが生徒の学力に大きく影響していることは否めません。根気を必要とすることが苦手な子供が多くなったことが原因とも言われています。一方、昔の子供は今の子供より根気と集中力があつたように思います。そのため、現在は入



塾テストを実施して“学力があり、努力ができる” 優秀な生徒（根気と集中力がある生徒）を確保しようとする塾が増えているのです。しかし、学力の芳しくない生徒が難関校の合格者数だけを見て、そのような塾に入塾できたとしても、塾学習の消化に追われて、速い進捗で進む中学校の学習の流れについて行けなくなり、その結果、学力を低下させるのです。実際にそのような生徒は非常に多くなっています。特に成績が低迷している生徒は、簡単には学力を引き上げることは不可能ですから優秀な生徒のように一気に何段も飛び越えようとする学習は学力の低下を招きます。階段を一步一步上るような学習を経ることが学力を引き上げる特効薬なのです。

生徒を選抜しない塾の場合、教師が生徒を引っ張る学習指導が求められます。そのためには、どの企業でも行っている【社員教育】は不可欠です。教師は、塾の指示に基づいて真剣に職務を遂行するのは至極当然のことであり、そのようなことさえ理解していない教師ではどのような職業に就いても信頼されることはないはずです。そのため当塾は、勤務時間や勤務日に制約のある非常勤講師を採用している塾と異なり、教師に対する教育は当然のこと、生徒個々の学習状態に関する会議や打ち合わせを十分に行っています。

さて、中学生は高校に進学することを目標に頑張りますが、ほぼ全員が高校に進学する現状を考えれば、高校へ進学する目的は昔と大きく変化しています。結論から言えば、高校に進学することだけを目標とするのではなく、その先を考えて必要なことを講じなければならないということです。つまり、中学生のほぼ全員が高校に進学する現状を考えれば、志望校に進学できたとしても、卒業時には同様の競争が待ちかまえています。高校入試で少しでもレベルの高い高校を目指すのと同じように、大学や就職の選択も高校入試並みとなるということです。高校の進学率が義務教育なみでは、高校卒業後の進路選びにも大きな試練が待ち受けているのです。振り返れば、高校進学率がまだ 50%以下だった 1950 年代には、高校に進学した生徒は大企業などに就職できたそうですが、誰もが高校に進学する現在では卒業後の進路においても競争率が高くなることから、卒業後の選択（大学、就職、その他）が希望通りとなる確率は低くなります。

以上のことを考えると、レベルの高い高校に進学できたとしても、高校で良い結果を残さない限り、卒業時には下位の高校の生徒と変わらない進路を選択することになりかねません。それならぎりぎりの成績で無理をしてレベルの高い高校に進学できたとしても意味がありません。もしギリギリで合格できたのなら、入学後は必死に努力することです。反対に、レベルの高い高校に進学できなかった生徒は、高校が終着駅ではないのですから先の進路が最も重要と考えて高校で努力するべきです。そうすれば、レベルの高い高校に進学した生徒に負けない結果を得ることも可能です。実際に、例年、中堅以下の高校に進学した生徒が国公立大学や難関私立大学に合格したと報告してくれるケースがいくつもあります。学力を選ばずに生徒を受け入れる塾でありながら、このような

うれしい報告を受けることで、中学生時に完全に仕上がらなかった学力を高校で仕上げる努力をしてくれた生徒がいることを非常にうれしく思うことから記述しました。これは言い訳に過ぎませんが、もし当塾も一定以上の学力を有する生徒を受け入れる選抜塾であれば完璧に仕上げて高校に送り出せますが、基礎からやり直さないと理解できない学力の生徒も多く入塾される現在において、限られた期間、限られた学習時間内で非常に速く進む学校の学習進度に遅れずに、学習内容を容易に理解できる生徒は少ない中、それでもこのように卒業後にうれしい報告を受けることができるのは、全ての生徒に可能な限りの学習指導を行ってきたからだと思います。中学校で基礎学力をつけずに卒業したとしても、塾での勉強の方法をもとに、全てではなくとも徐々に基礎学力の不足分を解消した状態で高校に進学したことが、高校で学力を引き上げる原動力となったと確信しています。このことから学力と能力は別物と言い続けて来た当塾の考えが正しいと実証できるのです。いずれにしても、当塾の教師陣は、学力と能力は別物であることを信じて全ての生徒の指導を諦めずに行い、彼らが高校に進学後も良い結果を残すことが可能な道筋をつけたいと思います。何しろ将来の進路に大きく影響する高校の成績が非常に大切ですから、常に成長過程の状態に生徒を育てたいと思います。ご家族の皆様にもご支援とご協力をお願いします。

「まだ8月だ」と言える一方で、「もう8月だ」とも言えます。受験生がこの言葉をどのように捉えるかは個々によって異なると思いますが、この点において当塾が生徒にアドバイスしたいことは、今からの学習状態によって、①今の学力では合格の可能性の低い高校に進学できる可能性もあれば、②今なら合格の可能性のある高校なのに進学できない結果となることです。しかし、今からなら誰でも①は十分に望めます。つまり、生徒諸君に問いたいことは、“定期考査の前に真剣にテスト勉強する総時間数は何時間なのか”ということです。個人差はあれ、優秀な生徒を除けば真剣にテスト勉強を行うのは実質的に1～2日といったデーターがあります。これを信じるなら、テストの1週間前から真剣にテスト勉強に取り組む中学生はそれほど多くないということになります。ところが、そんな短時間のテスト勉強しかない生徒が多いのに10点や20点を取る生徒は皆無です。勿論、学校別のテスト対策を行っている当塾ではそんな得点を残す生徒は皆無ですが、それでも早くから真剣にテスト対策をする生徒は少ないと思います。以上のことを考えた時、今から入試までの時間は非常に多く残されていることに留意するべきです。もし現在の成績が学年の上位でなく、中堅以下の生徒であったとしても、定期考査の前日のような気持ちで入試までの期間を頑張れば、学年の上位にまで上り詰めることは十分に可能です。ここで当塾生に言いたいことは、③学年の上位の生徒はさらに高度な学習内容に対応できる努力をすること。④上位の次のランクに位置する生徒や芳しくない生徒は入試の時までに学年上位を目指して努力すること。以上の二点は問題集の消化によって解消できるでしょう。特に専任教師の学習指導を受けてきた当塾生

は常に他塾生より理論的に学習内容を理解できているにもかかわらず、テスト問題に対応できずに得点を落とすケースも少なくありません。彼らは問題に慣れていないために習って理解できたことをどの問題の解答に使うのかをきちんと理解できていないのです。これは問題集を解くといった根気の必要な作業を怠ることから生じているのですから、必ず問題集をどんどん解くようにしましょう。そうすることで入試にも大きな効果を得られます。いずれにしても9月からは学校の学習やテストに追われて入試勉強の時間は睡眠を削らないと確保できません。だからこそ、この8月を無駄に過ごさずに毎日入試問題を解くようにしてください。

*手洗い・うがいは忘れずに行いましょう！また、分からないところはチェックをつけておいて塾の教師に質問しましょう。

*小学生・中学1・2年生も頑張ってください！！